

# アウクスブルク滞在記

中島萌奈美

今回、尼崎市によるアウクスブルク青年使節団としてドイツにある姉妹都市アウクスブルクを訪れました。様々なことを見聞きし、すばらしい経験となりました。

## ホストファミリーとの出会い

アウクスブルク滞在中、初めてのホームステイを経験しました。私はアッカーマン家にお世話になりました。はじめのうちはお互いに少し緊張していて、食後一緒にソファでくつろいでいるときでさえ、「何を話したらいいのだろう」と考え、逆に日本のことを伝えようと考えすぎて話題に困ってしまうこともありました。たくさん話しかけてもらっても、相槌を打つだけで、自分の意見を上手に伝えられなかったときは本当にもどかしかったです。これまで海外に行ったり外国人と交流したりする機会は多かったものの、ホームステイのように現地の方の生活に入れてもらう機会はなかったため、とても貴重な経験となりました。英語やドイツ語などの語学力だけでなく、新しいことへの好奇心や幅広い分野における知識を含めて「コミュニケーション能力」だなと実感しました。また、毎日待ち合わせ場所の市庁舎前までバスで通っていたのですが、バスの窓から見える建物などを指さして、「あの建物はいつ頃建てられて、歴史的にはこんな出来事と関係があって、今はどのように使われている」と細かく説明

してくれました。自分の住む街のことをよく知っているなと感心しました。正直私は日本に来た外国人に、自分の住む地域や、有名な観光地ですら、詳しく説明できないと思います。どんどん開発や改修が進んでも、歴史的な背景や変わらない故郷の魅力をしっかり理解している彼らを見習うべきだと思いました。



毎日の待ち合わせ場所だった市庁舎

アッカーマン家では、「せっかくアウクスブルクに来たのだから、この地方に伝わる料理を味わってほしい」と、毎晩伝統料理をふるまってくれました。初めて見る肉料理やオープン料理など、毎日とても楽しみにしていました。アウクスブルク滞在最終日には、日本から持ってきていた乾麺のうどんとめんつゆを渡し、簡単に食べ方を伝えました。スパゲッティ以外の麺類を、珍しそうに見ていました。



オープン料理。キッシュに似ている

帰国2日前、尼崎市と長浜市からの使節団、各ホストファミリーとアウクスブルク市役所の方々とフェアウェルパーティに参加しました。尼崎市使節団は、書道教室とクイズ大会を行いました。私はクイズ班で、事前に日本に関する三択クイズを考え、パワーポイントを使って写真とドイツ語の単語で出題しました。日本の国技である相撲や桜、著名な作家・村上春樹さんについてのクイズなど、やや難しい問題を作ったつもりでしたが、意外にもほとんどの問題で半数以上の方が正解に手を挙げていました。純粹に驚きましたし、遠く離れた日本のことをこんなに知ってくれているのか、と嬉しくなりました。会の最後には、昨年アウクスブルクから尼崎市に来ていた、ホストファミリーの女の子のひとりがギターを持ち、日本で覚えたという「世界に一つだけの花」を演奏してくれました。私たち使節団もステージに上がり、ドイツ人も日本人もみんな一緒になって歌ったことが、とても印象に残っています。

帰国当日、市庁舎前でホストファミリーと最後のお別れするとき、これまでトラムで話していた何気ない会話や、ファミリーデーでニュルンベルクに連れて行ってもらったときのこと、そして何よりアッカーマン

家のSabine、Leonie、Christopherの優しい表情を思い出し、急に寂しくなって涙がこぼれました。約1週間という短いステイでしたが、自分で思っていた以上に思い出が濃く、忘れられないものになっていました。ファミリーとは、今後も連絡を取り続けていきたいと思います。



ホストファミリーと、フェアウェルパーティにて

## 使節団の仲間たち

一緒にアウクスブルクにいった青年使節団のメンバーは、皆学習意識が高く、とても活動的で見習うべき姿だと思いました。自分にはなかった考え方や世界、生き方を知ることができ、よい刺激を受けられました。日本へ帰国してからの生活を見つめ直すきっかけとなる、とてもよい機会となりました。具体的には、時間の使い方や今の

時期に勉強する内容の優先順位、進む道は無限にあることなど、これまで頭ではわかっているけど実感できなかったことです。私も将来を見据え、もっと有意義な生活を送らなければいけないと思いました。